

(1)児童の体力の現状

男子	小5	○握力が県平均を3.7点上回っている。 ○長座体前屈とソフトボール投げは県平均をわずかに上回っている。 ○20mシャトルランでは県平均を2.5点上回り、持久力が優れていると言える。 ●上体起こし、反復横跳び、50m走、立ち幅跳びは県平均を下回っている。
	他学年	○長座体前屈では全学年で県平均を上回っている。 ○6年生の50m走ではわずかに県平均を上回った。 ●5年生を除き、20mシャトルランでは、県平均を下回っている。 ●反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げで県平均を下回っている。
女子	小5	○長座体前屈では0.3点、50m走では0.9点県平均を上回っている。 ○20mシャトルランでは1.5点県平均を上回り、男子とともに持久力が優れている。 ●握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げで県平均を下回る。 ●「体育の授業は楽しい」で県平均を6.8点下回り、楽しんでいる子が少ない。
	他学年	○長座体前屈ではほぼ全学年で県平均を上回っている。 ○上体起こしでは、下学年で県平均を上回っている。 ●立ち幅跳び、ソフトボール投げは、全学年で県平均を下回っている。

(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

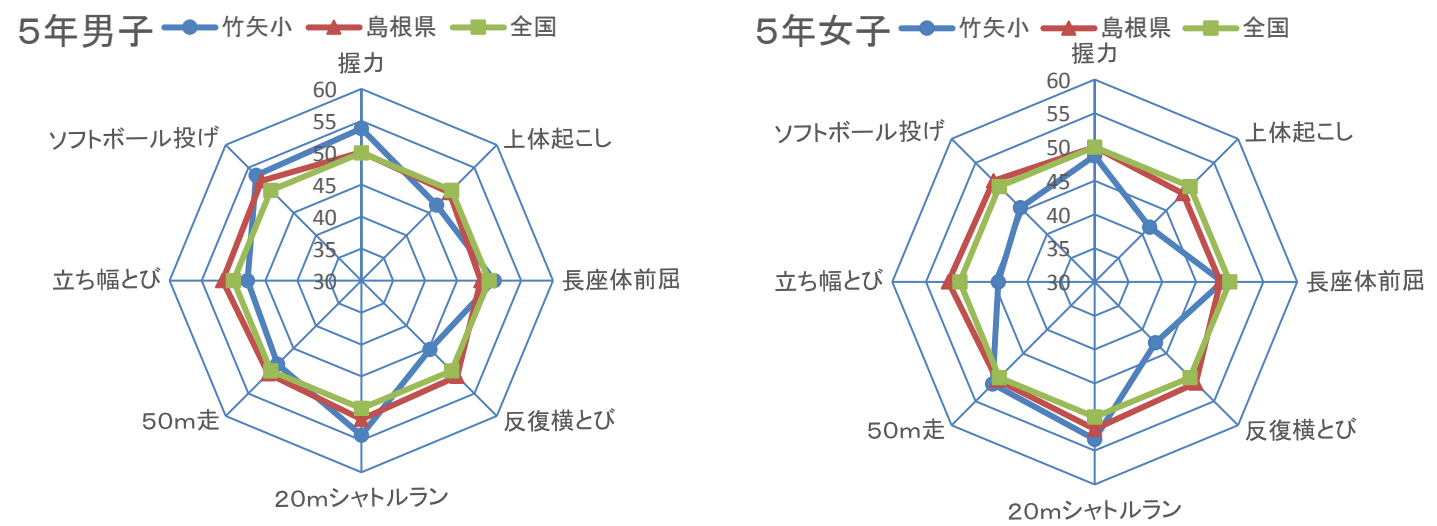
- ボールなどの学校備品を整備することで、学校生活全般において運動量を増やすとともに、運動経験を積む機会を増やすことができた。
- 連合体育大会、器械運動発表会に向けて、高学年全員で練習に取り組むことにより、体力向上や運動経験を増やすことができた。
- 児童会との連携を図り、縄跳び大会を実施することで冬季の体力づくりを推進した。
- 体づくりとして、姿勢体操や5種目歩走に継続して取り組んだ。
- 日常的な体力づくりにつながる活動への取組が不十分だった。
- めあてと振り返りを行う授業を十分に実践できなかった。
- 児童同士でコツを伝え合う活動など、児童が関わりあう活動の工夫が不十分であった。

(3)31年度の取組【対策】

- ①学校における取組
- ・授業でめあてと振り返りを意識させ、目的意識をもって体育学習ができるようにする。(継続)
 - ・持久力の維持・伸長をねらいとし、ある期間の体育の時間、継続的に持久走の記録を計り、記録や変化が分かるようにする。(マラソン記録会)
 - ・年度当初、姿勢体操、5種目歩走の内容、実装方法を検討し、継続して取り組む。
- ②地域や家庭との連携による取組
- ・町内運動会への参加をとおして、地域と家庭とともに体力向上に努めていく。
 - ・学校での取組を地域・家庭に紹介し、理解、協力を得る。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
- ・チャレンジ週間を充実させ、生活習慣を見直し、改善していく。(継続)
 - ・体格のデータと生活習慣との関連性を把握し、特に気になる児童について家庭との連携を図る。

調査実施者数(人) 1年(男子25・女子21) 2年(男子26・女子26) 3年(男子30・女子21)
4年(男子22・女子31) 5年(男子30・女子18) 6年(男子32・女子29)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)

